



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天象. 天界 1935, 15(169): 277-279

ISSUE DATE:

1935-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167006>

RIGHT:



# I——太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (星座)	日没	日付	夜半の月齢	月出 (星座)	月没
日	時 分	時 分	日	日	時 分	時 分
1	5: 7 (ひつじ)	6: 41	1	27.5	3: 34 (うを)	17: 10
6	5: 2	6: 46	2	28.5	4: 10	18: 11
11	4: 57	6: 50	3	0.1	4: 46 (ひつじ)	19: 21
16	4: 53 (うし)	6: 53	4	1.1	5: 31 (をうし)	20: 21
21	4: 50	6: 57	5	2.1	6: 21	21: 26
26	4: 47	7: 1	6	3.1	7: 15	22: 23
31	4: 45	7: 4	7	4.1	8: 13 (ふたご)	23: 9
			8	5.1	9: 13	23: 49
			9	6.1	10: 13 (かに)	—
			10	7.1	11: 10	0: 22
			11	8.1	12: 7 (しる)	0: 51
			12	9.1	13: 2 (六ぶぎ)	1: 16
			13	10.1	13: 59 (しる)	1: 41
			14	11.1	14: 56 (をとめ)	2: 6
			15	12.1	15: 54	2: 33
			16	13.1	16: 54	3: 3
			17	14.1	17: 57	3: 35
			18	15.1	19: 1 (てんびん)	4: 12
			19	16.1	20: 4 (さそり)	4: 57
			20	17.1	21: 2 (へびつかひ)	5: 50
			21	18.1	21: 53 (いて)	6: 50
			22	19.1	22: 45	7: 56
			23	20.1	23: 24	9: 5
			24	21.1	— (やぎ)	10: 15
			25	22.1	0: 0 (みづがめ)	11: 23
			26	23.1	0: 33	12: 22
			27	24.1	0: 58 (うを)	13: 39
			28	25.1	1: 24	14: 47
			29	26.1	1: 54	15: 55
			30	27.1	2: 43 (ひつじ)	17: 4
			31	28.1	3: 23	18: 15

## II——天象

日 時 分	天象
2, 17: 52	天(南5°49')と月と合
3, 21: 39	水(南3°58')と月と合
4, 9: —	水星が近日點
6, 8: 5	金(南38')と月と合
10, 10: —	木星が對衝
12, 23: 26	海(北5°14')と月と合
15, 0: 56	火(北5°30')と月と合
18, 5: 29	木(北6°4')と月と合
19, 15: —	火星が停留
24, 17: —	海王星が停留
26, 9: 20	土(南5°55')と月と合
27, 7: —	水最離角(東22°51')
30, 4: 22	天(南5°51')と月と合

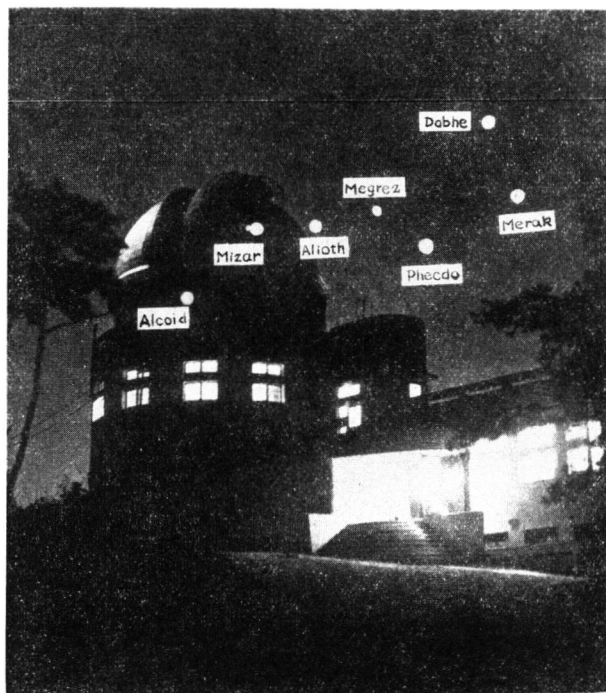
新 月 5月 3日 6時36分  
上 弦 5月 10日 20時54分

満 月 5月 18日 18時57分  
下 弦 5月 25日 18時44分

## 主な流星群

日 付	赤経	赤緯	附近の星	性質
2日——8日	334°	- 2°	水瓶座 γ	速 痕
18日——31日	246	+ 29	北冠座	速 白

——五月の星座—— 夜 話（五月）〔Ursa Major〕



女神ダイアナの胸は夜が薄らんで行くに従って愈々騒ぎ立つのでした。………ともすれば蒼ざめた吐息がうかがはれるのです。

晴夜の逍遙を終へて暁の微光を和かに脊にうけながら月の女神は歸つて來たのです。

美しい數人の精女が香ふが如く従ひます。

イツいそと出迎へる精女達の中にダイアナは目早く侍女カリストを見出したのでした。

心なしか此のお氣に入りの精女の面は麗しい光澤の中に一抹の燦れる不安が感じられるのです。………夜半アルカディアの山を下る途中背後で侍女の囁き合ふ噂を耳にしては愛するカリストの事ですもの何うして胸をいためずに居られませう。

處女の女神ダイアナは唯一人カリストを呼びよせてはからずも耳にした彼女の處女性を問ひ尋すのでした。

ひれ俯した精女の肩は悪夢の様に震え戦くのです。………布を透して暁の肌が蕾の様に恐懼します。漸時見上ぐるカリストの美しい顔はサメザメと

泣いて居ました。………舜に光り舜に曇る涙の腫が言葉の適はざるものを訴へるのでせう。………哀歌の様に不斷の濡れた唇が今は羞恥にいためられ聲なき許しの歎願にケイレンします。

女神の面が即座に霞を呼ぶのです。

左手の弦が千に波動します。

ハタハタと橙色の衣が曉の風に空を打つのです。限りなくカリストの可憐な純真を慈しみ又信じて居たダイアナです。

何ものにも換へ難く其の處女の無智な色彩の肌を愛撫して來た彼女です。

それだけに彼女の裏切られた悲しみと怒りは大きいのでした。

自分のとつておきの大切な寶玉………それがみちんに打ち碎かれた思ひなのですから………

今はすゝりなく此の精女を見るに忍びません。悲痛に美しいダイアナの下半面が歪みます。

『みだらな牝熊よ！お前は極北の空に撃がれなければならぬ』

嶮しい月の精の口調でした。………そしてほんのちよつぱり何んだか取り残された處女の女神としての淋しさが………

### 中村捨松氏の逝去を悼みて

何といふ惜しい事でせう………永らく待望してゐた朝鮮に於ける太陽觀測家………その唯一の人として中村氏の登場をこをどりして喜んだのは未だ記憶にも新しい去る一月のことでしたのに、三月分の報告を受けて間もなく氏の訃報に接するとは………こゝに謹みて深き哀悼の意を表します。

それと共に惜しまるゝ氏の遺業を繼ぐ朝鮮に於ける新しい觀測者の出現の一日も早からむ事を祈りつゝ………

東亞天文協會觀測部太陽課

◎告!! 六月號は「時及び時計」に関する特輯號です、尙、七月號よりは「日食」に関する記事が毎月滿載される予定です、御期待下さい。